

性感染症について。

性感染症とは

性感染症 (sexually transmitted infection; STI) は性行為で伝播するすべての感染症を指し、皮膚科、泌尿器科、産婦人科などで診療されることが多いのですが、性風俗の多様化に伴い、他の診療科で見つかる機会が増加しており、基本的な知識と情報の共有化が必要となっています。現在では 30 種類以上の微生物が性行為によって伝播することが知られています。性感染症の原因微生物としては、細菌に属するものとして、梅毒の原因となる *Treponema pallidum*、*Neisseria gonorrhoeae*(淋菌)、軟性下疳の原因となる *Haemophilus ducreyi*、鼠径肉芽腫の原因となる *Calymmatobacterium granulomatis* などがあります。細菌以外にもマイコプラズマ、クラミジア、ウイルス、などが原因微生物として挙げられ、また、原虫や寄生虫などが原因となることもあります。マイコプラズマの中で、*Mycoplasma genitalium* は、非淋菌性・非クラミジア性尿道炎の原因微生物として注目されています。*Chlamydia trachomatis* は、男性では非淋菌性尿道炎や女性の子宮頸管炎の主な原因となり、世界中で最も多い感染症と考えられています。また、女性の感染者では、不妊症や子宮外妊娠、流・早産などの原因の一つともなり得る重要な性感染症です。ウイルスでは、human immunodeficiency virus(HIV) が重要であり、後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome; AIDS, エイズ)の原因となります。世界的な増加を示しており、特にアフリカ、東南アジア、東ヨーロッパなどでの増加が深刻です。多くの先進国では減少傾向がみられますが、わが国では全体の症例数は少ないものの、増加し続けています。また、単純ヘルペスウイルス(HSV: Herpes simplex virus)による性器ヘルペスやヒトパピローマウイルス(human papilloma virus; HPV)によるけいせいコンジローマなども、代表的なウイルスによる性感染症となります。さらに、B型肝炎ウイルスによる肝炎も、性感染症として伝播することが確かめられていますが、その他の肝炎ウイルスも性行為で伝播する可能性が考えられています。

パートナーがいる場合には正直に告白し、性感染症と診断された場合にはパートナーにも検査を受けてもらいましょう。二人とも完治しなければ交互に感染を繰り返す、いわゆるピンポン感染を起こしてしまいます。以下に主なものを挙げていきます。

主な性感染症の診断と治療

1 淋菌感染症

最近の淋菌感染症の特徴は、尿道炎や子宮頸管炎などの、いわゆる性器における感染に加え、口腔内、直腸、眼などの感染症が増加していることです。これは性行動の多様化に伴う感染伝播の変化によるものと思われます。一方、淋菌感染症は治療上の問題点として、薬剤耐性淋菌の増加が挙げられます。キノロン系を始めとして、ペニシリン系、テトラサイクリン系、マクロライド系などの薬剤に加え、第三世代を含む経口用セフェム系薬にも耐性を示す、多剤耐性淋菌の蔓延が深刻な問題となっています。さらに、口腔内の淋菌感染に対しては、限られた薬剤だけが効

果を示すので、日本性感染症学会で発行している「性感染症 診断・治療ガイドライン」などを利用した治療法の標準化が必要です。

2 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、女性において卵管妊娠、卵管性不妊症、流・早産などの原因となることがあり、合併症や後遺症は複雑で、重大な問題となることが多いです。治療にはマクロライド系やテトラサイクリン系薬などが主に用いられます。ニューキノロン系薬ではいくつかの薬剤がクラミジア感染症に対して適応が取得されています。

3 尿道炎

淋菌やクラミジアによる尿道炎では、**排尿時痛または排尿時不快感や尿道分泌物**などが特徴的な症状ですが、淋菌か淋菌以外の原因かによって、尿道炎を①淋菌性、②非淋菌性・クラミジア、③非淋菌性・非クラミジア性、などと分類します。また両者の合併した④淋菌性・クラミジア性の尿道炎も存在します。非淋菌性・非クラミジア性の尿道炎の原因微生物としては、*Mycoplasma genitalium* が注目されています。淋菌とクラミジアに対する治療薬は大きく異なるので、これらの原因微生物を、グラム染色、培養、核酸増幅法などの適切な検査によって鑑別しなければなりません。女性では、これらの鑑別が困難な場合が多いので、スクリーニング検査によって、原因微生物を明確にする必要があります。

4 性器ヘルペス

性器ヘルペスは、単純ヘルペスウイルス(Human simplex virus; HSV)1 型、2 型で起こる性器の疼痛性発疹性疾患です。初感染、初発、再発の 3 型に分類されますが、初感染がはっきりしない場合もあります。HSV は、神経節に潜伏することが知られており、潜伏感染したウイルスが何らかの刺激により再活性化し、再発性病変を形成することがあります。通常、**強い痛みを伴う水疱性からびらん性病変を作る**のが特徴ですが、初発例の方が再発例より症状が強いです。一般に 2~6 週で自然治癒します。再発例では同様の部に病変を作りますが、症状は軽く、治癒までの期間も短いです。症状がなく、いわゆる無症候性であるにもかかわらず、ウイルスを排出している患者がかなりいることが、最近の問題となっています。また、再発を繰り返す患者に対しては、抗ヘルペスウイルス薬の長期投与法が用いられるようになりました。

5 尖圭コンジローマ

尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルスにより起こる特有な疣贅を形成する疾患で、疼痛、その他の症状はほとんどみられません。良性型 HPV の 6 型ないし 11 型の感染によります。男性では亀頭部、冠状溝、包皮、陰嚢部などに発生し、乳頭状、鶏冠状の外観を呈します。HPV は**女性では子宮頸癌、男性では陰茎癌の病原因子としての意義が明らかになり**、これらの癌における発症と感染の関係に注目が集まっています。尖圭コンジローマと癌の原因となる HPV にはそれぞれ相違があり、発癌と関連の深い型の HPV は悪性型と呼ばれます。治療としては、主に外科的治療が行われ、ポドフィリン溶液なども用いられていますが、最近、クリームの外用薬も使用できるようになりました。